

事例報告－5

森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

プログラム名： 「アサヒの森体験活動」		アサヒビール(株)アサヒの森環境保全事務所 庄原市立峰田小学校
(1) プログラムの目標	1 多様な思考力の育成 ○小さな気づきを大切にしながら、事象の本質に迫る課題発見につなげ、課題解決に向けた多様な考え方を身に付けさせる。【創造性】 2 協同による課題解決力の育成 ○現実を受け入れ、他者を尊重しながら、より良い解決策をチームで探る関わり能力を身に付けさせる。【コミュニケーション能力】 3 自己判断と決定を伴う主体性の育成 ○課題解決に向け自己の考えを確立し、事象に積極的に関わろうとする力を身に付けさせる。【行動力】	
(2) プログラムの概要	《総合的な学習の時間を中心とするカリキュラム・マネジメントによる授業構成》 1 年間指導計画による各学年の実践テーマ（平成28年度版：各学期4～6時間扱い） 【3/4学年】テーマ「ふるさとじまん探検隊」→→→単元ゴール『ふるさとじまんカルタ』を作ろう。 【5学年】テーマ「私たちのふるさと！産業と町づくり」→→→単元ゴール『ふるさとパンフレット』と作ろう。 【6学年】テーマ「地域の環境を守ろう」→→→単元ゴール『地域のよさ・自分たちのできる環境保全を（壁新聞等で）発信しよう。』	
(3) プログラムの展開		
活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。 ・in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動）		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in、about、for の視点で活動内容を区分		
1学期 4時間	アサヒの森環境教育プログラム『水の役割・木を使う』	
	【in】○全学年「夏のアサヒを探索しよう」 →森林散策→浄化実験→丸太切り→工作→振り返り 【about】○現地での学び合い活動（グループ） →散策情報の提供→浄化の不思議のこ技能伝授→自然アートのアイデア紹介	【in：体験活動では】①実際の森林を自分の五感で捉える。②気づきや疑問点は積極的にたずねよう。 【about：調査・相互学習では】①自分の気づきや考えを積極的に伝えよう。②疑問・質問は積極的にたずねよう。 【for：解決学習では】①伝えたいことは分かりやすく、考えてみたいことは課題解決に向けてやりきろう。
【for】1学期の体験活動を受けて→環境新聞としてまとめ or 夏の工作及び科学研究への意欲付け		
2学期 4時間 ※森に親 しもう	アサヒの森環境教育プログラム『森の親しむ』	
	【in】○全学年「実りの秋のアサヒを探索しよう」 →森林散策→植物図鑑作り→味噌汁・焼きおにぎり体験→シイタケ植菌体験→振り返り 【about】○現地での学び合い活動（グループ） →散策情報の提供→浄化・葉の共有化→昼食づくりの役割分担→植菌作業のコツ伝授	【in：体験活動では】①実際の森林を自分の五感で捉える。②疑問点は積極的にたずねよう。③研究課題を1点見つけよう。 【about：調査・相互学習では】①自分の気づきや考えを積極的に伝えよう。②質問は積極的に。③見つけた課題を解決しよう。 【for：解決学習では】①伝えたいことはより深く、研究課題の取組でお互いの良さを認め合おう。
【for】2学期の活動→植物図鑑・樹木検索完成、学習発表会台本作り、myお弁当作りの意欲付け		
3学期 4時間 ※森の恵 み	アサヒの森環境教育プログラム『森の恵み』	
	【in】○全学年「雪のアサヒを探索しよう」 →スノーシュー・ハイク体験→巣箱作り→大かまくら・ソリー体験→ヒノキストーブ体験→振り返り 【about】○現地での学び合い活動（グループ） →散策情報の提供※とりわけ、生命存在の事象→巣箱作りの役割分担（予定）	【in：体験活動では】①実際の森林を自分の五感で捉える。②疑問点は積極的にたずねよう。③生命存在の根拠を持ち帰ろう。 【about：調査・相互学習では】①自分の気づきや考えを積極的に伝えよう。②質問は積極的に。③新たな経験をもち帰ろう。 【for：解決学習では】①周辺の環境と私たちの暮らしを結び付けて、自分の考えをまとめよう。②次年度のプログラムを考えよう。
【for】3学期の活動→各学年の年間ゴール達成を目指す。次年度のマイプラン作りで意欲付け		
3学期 2時間	ことばの教育年間計画：体験活動等を通して、相手意識や目的意識をもって話す力を育てる。	
	全校スピーチ大会	【about：調査・相互学習では】①これまでの学習や生活を基に、自分の考えをまとめ発信しよう。②友達の発表を聞き、表現方法の良さを学ぼう。 【for：解決学習では】①自分の考えていた発表内容を振り返り、PDCAサイクルで新たなチャレンジ精神をもとう。

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

- ①連携・協働先
 - ・アサヒの森環境保全事務所⇄庄原市立峰田小学校
- ②役割分担
 - ・アサヒの森環境保全事務所→体験プログラムの開発及び修正、現地指導、原材料・器具等の準備 等
 - ・峰田小学校→プログラム開発要請及び協議、児童の安全指導、教材準備、体験活動事前・事後指導 等
- ③具体的な連携・協働の内容
 - ・体験内容による現地の学習環境整備
 - ・小学校の行事及び授業進度を見通しての開催時期の調整
 - ・当日の体験活動の役割分担と準備物の確認

学習指導要領との関連 (小学校)

1年	生活：身近な自然の観察、利用		
2年	生活：生き物を育てる、成長		
3年	社会：飲料水、地域の生活	理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）	
4年	社会：都道府県の様子・生活	理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）	
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全	理科：植物の発芽、成長、結実	気象と水のはたらき 家庭科：ご飯・味噌汁
6年	社会：歴史上の事象、文化財	理科：生物と環境	大地のつくり 家庭科：任せて今日の食事
総合的な学習	横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表		
特別学習	遠足・鑑賞、集団活動・生活		

森林環境教育の視点

1 感性的経験	感性的な内容 — 森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 — 植物や動物の生態など
3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容 — 森林の働き、保安林など
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 — 森林の荒廃、人手不足など
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 — 森林整備、育成、維持、管理など
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 — その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
《理科》 ○3年：植物の一生、昆虫観察 ○4年：季節と生き物、水の行方 ○5年：植物の成長、生命の誕生、気象と水の行方 ○6年：生物と環境、自然とともに	【3年】《植物・昆虫》身の周りの生物の様子や周辺的环境について、興味・関心をもつ。 【4年】《季節》動物の活動や植物の成長に興味・関心を持ち、観察・記録をする中で生物を愛護する実践力を高める。《水》水の姿の変化を自然界と関連付けて考える。他 【5年】《植物・生命》動植物の誕生・発芽・成長を捉え、生命の連続性を考えるとともに生命尊重の実践力をもつ。《気象》天気の変化と自然界の関わりに興味・関心をもつ。他 【6年】《生物・環境》動植物の創りを理解し、生命の維持・尊重の実践力を高める。《自然》大地の変化と災害を関連付け、自然の大きさ・身近な環境問題等を考える。他
《社会科》 ○3年：働く人と私たちの暮らし ○4年：私たちの県・郷土の発展 ○5年：私たちの国土、生活と環境 ○6年：世界とのつながり、復興実現	【3年】人々の健康な生活や生活環境及び安全を守る諸活動について理解する。 【4年】地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを知る。 【5年】《国土》我が国の国土の様子、国土の環境と生活の関連を理解し、環境の保全や自然災害防止の重要性に関心を深める。《環境》産業の発展と生活の関連に関心をもつ。 【6年】《世界》国家・社会の発展に貢献した先人や優れた文化遺産に興味・関心をもつとともに国を愛する心をもたせる。《復興》災害復旧・復興の取組と地方公共団体及び国の働きに関心をもつ。 他
《国語科》 ○3年：インタビュー、心に残ったことを伝えよう 他 4年：新聞を作ろう、私の考え 他 5年：討論しよう、伝えよう 他 6年：随筆を書こう、資料を生かして、町の将来を描こう 他	【3年】《インタビュー》要点をメモしながら聞く。《伝えよう》構成を考え、出来事の様子やその時の気持ちが伝わる文書を書く。《グループ》司会の進行で話し合う。 他 【4年】《新聞》見出し・割付を考え新聞を作る。《私》理由を明確にし文章を書く。 他 【5年】《討論》主張と理由を明確にし、計画的に討論する。《伝えよう》経験を振り返り、活動報告を書く。《新聞》記事を読み比べ、書き手の意図を読み取る。 他 【6年】《随筆》事実と感想・意見を区別して随筆を書く。《資料》複数の資料から効果的なものを選び文章を書く。《町》情報を目的に応じて活用し発表する。 他

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
E S Dの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながり尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱	①生きて働く「知識・技能」の習得			
	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成			
	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養			
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育 (E S D) 等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」(三つの柱)に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。(該当がない項目は空欄)				
項目	E S Dの要素(7つの能力・態度)の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	○森林散策・・・事実に基づく客観的情報収集と生活体験への発展的基礎を有す。 ○丸太切り、みそ汁・焼きおにぎり体験、シイタケ植菌体験スノーシューハイク体験、 大かまくら・ソリー体験、ヒノキストーブ体験等・・・実感的な生活体験により、 コミュニケーション能力及び深い思考への基礎を有す。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	○浄化実験、植物図鑑作り、巣箱づくり等・・・自らの考えを基に、他者との関わり や協議を通して、新たな価値づくりへの基礎を有す。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	○各種共同作業、振り返り活動等・・・お互いの考えや行動を認め合いながら、 学び合いの組織化ができる。 ○全校スピーチ大会・・・自らの経験を通して、発表原稿・表現方法の工夫・スピーチ 練習を通して、相手意識をもった話し方及び感想発表を伴う聞き方などを育成し、 アサヒの森体験活動に係るP D C Aサイクルの学びを有す。			
(7) 実施後、参加者の変化				
○他教科等への発展・・・参加児童は、体験活動を通して多面的な活用方法及び課題発見・課題解決学習を意識するようになった。【例】科学研究作品募集への意欲と応用、学習発表会におけるシナリオ作りと環境保全の扱い、高学年の手作りお弁当(教科書題材の活用)のメニュー開発等々 ○人間関係能力の広がり・・・児童会自主的活動参加への積極性 【例】高学年のリーダー機能と全校レクレーション活動の広がり、トラブル発生時の低率化等々 ○教職員による地域教材の開発・・・【例】社会科による地元農産物のフィールドワークと聞き取り調査、総合学習による地元文化財の掘り起し活動、道徳によるホタル生息維持の地元活動の題材化等々 ○保護者・地域の期待感・・・アサヒの森体験活動を基にした関連及び発展教材による情報発信等で、本校に対する支援と協力体制が前進の方向にある。				
(8) プログラムの今後のめざす方向・展開				
○アサヒの森体験活動の新メニューの開発・・・学期1回実施の体験活動へは、3学年以上が参加している。達成感のある体験活動とチャレンジ精神を駆り立てる体験活動の組み合わせなど、プログラムの充実を図る。 ○体験活動メニューの教育的位置づけに係る教育課程の再編成・・・総合的な時間を中心として、他教科等のつながり重視した課題発見・課題解決学習による「主体的で協同的な深い学び」を創造するカリキュラム・マネジメントの充実を図る。				
(9) 現状での課題、質問事項など				